

# かけはし

中国国際广播电台日本語部  
2007年6月15日 2007年第二期(总第2期) <http://www.cri.cn>  
E-mail: nihao2180@cri.com.cn <http://japanese.cri.cn>



住所: 中国北京市石景山区石景山路甲16号  
中国国際放送局日本語部  
郵便番号: 100040  
電話: 86-10-68891987  
86-10-68891975  
FAX: 86-10-68891951

中国国際放送局日本語部  
2007年第二期(2号) 刊行日: 2007年6月15日

中日関係は去年10月、安倍首相の訪中によって新しい一ページが開かれました。また、今年4月に成功裏に行われた温家宝首相の日本訪問は、今年の両国関係の発展を一段と活発化させました。こうした好ましい状況の下、北京放送日本語部は、両国民の間に更に理解と交流の架け橋を作るよう尽力していきたいと思っています。

今年の上半期には、日本語部主催による春の中日ネット対話、温家宝首相による日本の国会演説の生中継、そして日本向け放送番組の再編成など一連の仕事は、リスナーの皆さんのご協力もあって、順調に実施することが出来ました。このうち、春のネット対話では、両国のゲストが日中両国民はどう付き合えばよいのかについて討論を行い、13万人ものユーザーが北京放送のホームページにアクセスし、このイベントに参加してくれました。温家宝首相による国会演説は、現在の中日関係を正しく認識するには必要不可欠で、その内容を生中継の形で、いち早く中日両国民に理解してもらうことには重要な意義があります。6月に行った放送番組の再編成は、今までの番組を元に、リスナーの皆様の視聴ニーズにより一層応えるため、一部の番組の放送時間や放送日を変更した他、番組の制作担当者も一部調整を行いました。



左から、王丹丹、謝宏宇、傅穎

また、今年の下半期には、放送番組の再編成に続いて、ホームページのリニューアルを行うほか、日本のNHKとの共同制作による夏と秋のネット対話、中日国交正常化35周年特別記念シリーズ番組の取材と制作などを企画しています。6月27日に実施するネット対話は、今年が中日文化スポーツ交流年にあたることから、「スポーツで知ろう 中国を日本を」というテーマを選び、日本語ホームページで生中継を行うことにしています。ご期待ください。

最後に、傅穎部長は間もなく駐在記者として東京に赴任することになりました。今、私が部長代行として、王丹丹副部长とともに日本語部を預かっています。今後とも精一杯頑張りますので、皆さんの一層のご協力とご支援をお願いしたいと思います。(謝宏宇)

## リスナーの皆さんのご協力に支えられて

4月11日、温家宝首相は「氷を溶かす旅」と表現した日本訪問を始めました。翌日午前、温首相は、日本の国会で、「友情と協力のために」と題した演説を行いました。日本語部は日本時間の10時からインターネットで生中継を実施。スタジオでは、林涛アナウンサーと王丹丹アナウンサーが、演説が始まるまで、温首相の今回の訪問の背景やエピソードなどを紹介。そして、温首相の演説の同時通訳は東京支局の張国清支局長が担当しました。

温首相は、「中日国交正常化35周年を迎え、両国の関係は大きな進展を遂げ、両国の国民にも目に見える利益をもたらした。両国関係が順調であれば、双方とも有利になり、悪化すれば双方にとって損になる」と強調しました。

温首相は、また、「両国関係を新たな段階に推し進め、平和共存、世々代々の友好、互惠協力、共同发展という目標を実現させるため、『相互信頼を増進し約束を履行する』、『平等互惠、共同发展を目指す』など五つの原則を堅持する必要がある」と強調していました。(編集:藍)

続いては、この日、北京のスタジオで生中継を担当した林涛さんの手記からの抜粋です:

「国会演説の前に5分ばかり時間をくれるというので、温首相が日本に到着したあとの空港でのステートメントの内容や、前夜の安倍首相主催の歓迎晩餐会などはどうだったのかを知らなければ、とと思って、演説当日の12日は早起きし朝4時に職場に行きネットを調べました。エピソードも少し見つけました。

そして7時半ごろに司会用の原稿みたいなものが何とか出来上がったので、はやく来た丹丹さんと打ち合わせ。8時半にスタジオに入り、東京とも連絡を取り、9時5分前に放送開始。丹丹さんは思ったより落ち着いており、なんとか二人で9時ごろまでおしゃべりし、テレビで、国会の本会議場で河野衆院議長が挨拶したあと、温首相が演壇にのぼったのを見て、あわてて東京とパトタッチ。もちろん、温首相の演説はよかったですね。で、演説が終わり、盛んな拍手に送られ温首相が下がった後、北京のスタジオで簡単なまとめの言葉のあと、中継放送は終了。ここで丹丹さんとOKの合図。これで任務完了!ということでした。(林涛)

ネットでの生中継を聞いてくださった人

たちが、感想を寄せてくださいました。

「温家宝首相の訪日を心から歓迎致します。6年ぶりの訪日で、待ち焦がれた熱い思いを感じます。去年、日本では安倍総理大臣が誕生し、2週間もしないうちに友好国である中国へ正式訪問を果たしました。私は、新しい日本と中国との関係が始まると感じました。また、日中両国のこれまで以上に、ハイレベルな友好の幕開けとも感じました。多分、この瞬間は、日中両国だけでなく、東アジア、いや、世界中に前向きなポジティブな好影響を与えるものと期待してなりません。私が個人的に行っている、草分けの日中友好の架け橋を益々張り切っていく心遣いでいます。これからは、両国のイベントや、北京オリンピックの開催があり、日中協力し合って、成功を築きたいです」(大井直行さん)

「温家宝首相の国会演説は素晴らしかったですね。長年、冷え切った中日関係が今回の『氷を溶かす旅』を通じて、よくなるよう心から祈っております。」(東京・田中さん)

「温首相の唐招提寺の石灯籠の話聞いて、すごく感動しました。そういうものって、本当に日本と中国がずっと前から付き合い合っていたことを思い出させますよね。政治的な問題はなんともいえませんが、これから仲良く一緒にやっていたらいいなと心より望んでいます。」(関西・新米の主婦さん)

「中日国交35周年のこの年、温首相の日本訪問はきっと大きな成功をもたらすでしょう。最近ずっと『政冷経熱』という言葉を目にしていますから、これからはもっといい方面に行けるかな。もし本当に政治面で進歩したら、われわれビジネスをやっている人たちとして、何より嬉しいです。ついでに、関税などはこれからどうなるでしょうか?」(北京・李昇さん)

「日本の教科書に遣唐使とか、鑑真とかは書いてありましたが、そういう昔話に関する実体感がないまま、19年も生きてきた私、今年中国の広東省に留学に来ました。これって現代遣唐使とも言えますか?こちらに来て、同じ物事でも違う視点から見ると全然違う結論が出でることをつくづく思いました。その違いを将来国に帰ったら、周りの人に伝えます。温首相の今回の訪日もたくさんの人にそれを伝えられればと思います。」(at・タケシさん)

## 温家宝首相の国会演説、インターネットで生中継

## 「スポーツで知ろう 中国を日本を」 ——第二回中日インターネット対話

友好は、相互理解から生まれます。その相互理解には、話し合いが必要です。中国国際放送局とNHKが提携して第二回中日インターネット対話を開催することになりました。テーマは、「スポーツで知ろう 中国を日本を」。中日スポーツ交流の歴史を振り返りながら、スポーツ最前線で活躍している両国のパネラーが皆様と共に、ホットな話題について議論します。

日本時間の6月27日(水曜)20:00~21:30、<http://japanese.cri.cn/> このサイトで日本語で中継。その後、音声ファイルをページに載せるので、再生して聞くことができます。パネラーは下の四人の方々です。

北京スタジオには、



程 力鈞(てい・りっくん)  
元バレーボール選手、コーチ

1993年什刹海体育学校在学中、当時、国体を控えた香川県に招かれ、日本留学。国際武道大学を卒業後、東レアローズの選手を経て、代理ヘッドコーチとして東レを黒鷲旗全日本バレーボール選手権大会優勝に導く。2006年帰国し、現在は北京在住。



坪井 信人(つばい・のぶひと)  
スポーツ・コンサルタント

日本と中国の出版社勤務を経て、1998年より北京在住。現在はスポーツマーケティング会社OCEANS Marketing国際部部長。ジュビロ磐田や読売巨人軍の中国コンサルティングをはじめ、サッカー、野球分野での中日交流を数多く手がける。日本語情報誌『北京トコトコ』にスポーツエッセイを連載中。

東京スタジオには、



井村 雅代(いむら・まさよ)  
シンクロナイズドスイミングのコーチ

シンクロの選手を経て、1978年から日本代表コーチを務める。シンクロがオリンピック種目になってから、6大会連続日本代表のメダル獲得を成し遂げ、多くのオリンピック選手を育てている。2006年12月、中国代表ヘッドコーチに就任。



孫健明(そん・けんめい)  
武術・太極拳のコーチ

中国武術太極拳7段。『武当』など数多くのアクション映画で主演。1986年、日本に渡って以来、中国武術・太極拳の普及に尽力。日本武術太極拳連盟選手強化委員会副委員長、日本オリンピック委員会選手強化コーチ。東京武術太極拳クラブ理事長・総監督。